

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年7月10日発行 No.43

『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。』

(マタイによる福音書 11:28)

<「ヒロシマ平和旅考 2017」事前学習会を開催!! 8・6に向けて学びを深め、想いを高める!!>

キリスト教センターの主催する大きな行事の一つに「ヒロシマ平和旅考」(←「考」の字は変換ミスではありません!!)があります。世界で初めて核兵器が実戦使用された地、広島。様々な祈りと願いが交錯する8月6日のヒロシマ(←ここも敢えてカタカナ表記にしています)を訪れるには丁寧な準備、特に広島や原爆についての学びが必要不可欠であると思います。そこで先週、参加希望者を対象に事前学習会を開催しました!! 特に学習会資料を準備しながら驚かされたのが、昨年5月27日に広島を訪れたオバマ元大統領の言葉です。核の廃絶を訴え続け、現職大統領として初めて広島を訪れたオバマさんの言葉には重みと深み、そして平和を求める願いが力強く示されていたように感じました。しかし、あれから約1年の間に世界が大きく変わってしまった現状に、私だけでなく参加した学生も違和感を覚えている様子でした。このような疑問や違和感を抱きながら、広島に立つ事が大切であると感じます。日本人学生よりも多くの留学生(中国・ネパール・フィリピン・ベトナム・カンボジア etc...)が参加してくれる事にも強い喜びと使命を感じます。この3日間の小さな学びが、自己中心の流れの中で混沌を極める世界情勢の中であって、大切な希望の光となる事を感じています!!



歴史を踏まえながら、今を生きる…

<わずか10分のオルガン演奏が心を癒し清めるチャンスに…。音楽礼拝やってます!!>

火曜日の音楽礼拝では、オルガニストの伊藤純子先生に短いメディテーション(「黙想」や「瞑想」の意味)の時間を担当してもらっています。黙想や瞑想と言うと、黙って思いを巡らす…というような形を連想するかもしれませんが、KIUチャペルでは伊藤先生のオルガン演奏を通して行います。

便利な時代の中、映像・IT機器などでオルガン演奏を観る事は出来ますが、やはり「本物」が持つ魅力に触れる事がその人の人生をより豊かにすると思います。また慌ただしい社会の喧騒から離れて一時心を落ち着けるメディテーション。このような自分の内面に向かう目線・姿勢こそが、一人ひとりの持つ精神性、霊性を磨くのではないのでしょうか? 一人でも多くの参加者をお待ちしています。



喧騒から離れ、一時心を静めてパイプオルガンの演奏に耳を傾ける…

歌を通して皆が一つになる

## <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

7月3日(月) テーマ:「私たちの間に」

ポウデル・アニル(経済学部2年生)

去年4月、KIUに入学した私は、日本とネパールの違いや色々な問題に戸惑いとても大変だった。色々悩み、迷いの中にいたが、不思議と自分を支えてくれる人の顔を思い浮かべると頑張るエネルギーが出た。

問題の解決方法は見えなかったが、自分の関心ある事にチャレンジしてみようと思い「ヒロシマ平和旅考」に参加したり、大学内の色々なイベントに参加したり、また日本文化部に入り日本の生活や文化を学んだ。現在はKIUの中で、留学生コミュニケーションサークルの代表を務めているが、私はこのように留学をして、KIUに入学し、多くの友人や先生方との出会いが与えられている事に大きな喜びを感じる。これからのKIUの生活を通して、この喜びの輪をもっと広げていきたい。



7月4日(火)

音楽礼拝

伊藤 純子(オルガニスト)

今回も30名以上の礼拝出席者が与えられ、伊藤先生のオルガン演奏に耳と心を傾けました!!

次回は7月25日(火)、前期最後の音楽礼拝で聖歌隊の奉唱を行います!! ぜひご出席下さい!!

7月5日(水) テーマ:「感謝」

利川 満(大学職員)

毎日の生活の中で「感謝」しているだろうか? 「感謝」の習慣があるだろうか? キリスト教の修道会ベネディクト会のデヴィッド・ラスト師父は「人は幸せだから感謝するのではなく、感謝が人を幸せにする」という言葉を通して、幸せになるには感謝の機会を逃さない事が大切であると説く。人を幸せにする全てを手に入れて幸せになれない人が多くいるし、反対に、起こって欲しくないような不運に見舞われても、そのような中でなお深く幸せを感じている人がいる。なぜか? それは、彼らが「感謝」しているからだと思う。今日の聖書でもイエスの有名な言葉によって願い求める事の大切さが語られているが、望む状況を作り出すためにも、望む状況を自ら演じてみる姿勢を大切にしたい。

7月6日(木) テーマ:「百聞は一見にしかず」~直接経験することの大切さ~

齊藤 仁(経済学部)

もうすぐ夏休み。この夏の予定は決まっているだろうか? 私はこの前の長期休暇に、オーストラリアに行く機会が与えられた。日本の20倍以上もある広大な土地を持つこの国。その首都キャンベラを訪れ、街を一望できる高台に上ると、日本のように住宅が密集しておらず、むしろ意図的に家を分散して配置している所に気付いた。理由を尋ねてみると、水源を確保するためらしい。国土の18%が砂漠であるオーストラリアは、水源を中心に街を組み立てる。結果、日本のように密集した住宅地はできにくいとの事だった。他にも、同じような車であってその国の使用方法に合わせた仕様になっている所など、実際に訪れる事で新しい発見や視点を与えられた。現代社会はとても便利で、IT機器を駆使すれば何でも調べられる事はできるが、やはり直接その地を踏む事で見える事・分かる事がある。まさに「百聞は一見にしかず」。長期休暇の時間を有意義に利用し、様々な経験を積んで欲しい。

7月7日(金) テーマ:「七夕に込められた願い」

野間 光顕(チャプレン)

息子の小学校で配られたプリントを見ると面白い記事があった。七夕の物語や飾りの意味に加えて「仙台七夕まつり」の様子が写真入りで掲載されていた。例年8月6日~8日に行われ、200万人以上が訪れる東北三大祭りの1つであるこの祭り、特に最近3・11からの「復興と鎮魂」をテーマに行われている。また、初日である8月6日が原爆の日である事から「平和七夕」としても覚えられており、全国から寄せられる100万羽以上の折鶴を花輪にして飾り、観光客に平和の大切さを伝えている。広島と仙台、場所は違っても「平和を希求するメッセージ」に変わりはない。このような時代だからこそ、揺らぐ事の無い「平和」という柱を胸に刻みたい。(文責:野間 光顕)